

Ryu's Paper

リュウズ ペーパー

龍華図書館

2021年3月1日

3月号(隔月発行)

Vol.22

寒かった冬もそろそろ終わり、来月から新年度が始まります。まだまだ大変な世の中ですが、気持ちを新たに頑張りましょう。

第22号では「玉串川」をご紹介します。山本の住宅地の中を流れる玉串川は、春になると桜並木が美しい八尾のお花見スポットとして知られていますが、その昔はよく洪水の起こる、暴れ川でした。

シリーズ 図書館でめぐる郷土

たまくしがわ 第二十二回 『玉串川』

近鉄河内山本駅を降りるとすぐに川が流れています。山本住宅地の中央を南北に流れるこの川の名前を、「玉串川」といいます。川沿いには桜が植えられ、八尾の花見スポットとして有名です。玉串川が桜の名所となるまでの歴史はどのようなものだったのでしょうか。

玉串川は元々、玉櫛川と呼ばれ、旧大和川の一流でした。当時の川幅は約200m前後もあり、河内の河川の特徴である天井川(土砂の関係で河底が田畑より高くなっている川のこと)となっていたため、江戸中期まで堤防の決壊による洪水が何度も起こり、農民たちは難渋していました。奈良時代からある洪水の記録によると、江戸時代の1620年から1685年までの65年間に12回も洪水が起こっており、当時作られた東岸堤防の一部が、玉串川の近くにある御野縣主神社^{みのあがたぬし}の境内に今も残っています。

1650年、洪水被害に困っていた村々を代表し、河内郡今米村^{いまごめむら}(東大阪市)の庄屋の川中九兵衛^{かわなかきゆうべえ}が幕府に大和川の付け替えを訴えました。しかしすぐには聞き入れてもらえず、嘆願を続けた結果、幕府は1704年2月から工事を開始しました。工事区間は、柏原から堺まで延長約14km、川幅約180m、堤防の高さが約5mという範囲で行われ、工事費用は現在の金額にして約15億円、人足は1日約1万人が必要でした。大がかりなものでしたが、着工してわずか8ヶ月後の1704年10月に完成しました。

以来、付け替えにより、玉串川は灌漑用の水路として利用されてきましたが、昭和30～40年代に入ると周辺の急激な都市化で上流の大和川の水質が悪化し、玉串川にも生活排水が流入するようになりました。このような状況を憂えた当時の山本仲町会長の黒川竹松氏が、「川を美しく緑あふれる町にしよう」と呼びかけ、住民から1口500円の寄付を募り、1965年1月に8年物のソメイヨシノの若木120本の植樹を始めました。山本仲町会の行動は大和町会にも影響を与え、寄付金の募集のほか町会のレクリエーション費用も充て、同年2月に約100本の植樹がされました。この行動に続いた青葉町会の住民も同様の方法で費用を捻出して吉野桜約100本を植樹し、翌年春には山本小学校から東大阪市境まで、約1kmの桜並木が誕生しました。

現在、玉串川の桜は約1000本にまで増え、春には近鉄河内山本駅北側2kmから南側3kmの川沿いに見事な桜並木を見ることができます。川との共生に尽力した周辺住民の人々の思いを知ると、桜並木がより美しく見えます。【右写真】八尾市観光協会データベースより



参考資料

『大和川付替(川違え)工事史』1980年12月 新和出版社
『1994 グラフ八尾-川物語-』1994年2月 八尾市役所室長広報課
『甚兵衛と大和川』2004年1月 中九兵衛/著 大阪書籍株式会社
『八尾市政だより』2012年3月 八尾市

『物語八尾の歴史』2015年3月 八尾市

3月のTopics&Information



-Topics



利用者アンケート

龍華図書館では2020年11月27日(金)~12月28日(木)、利用者アンケートを実施し、計533名の方にご回答いただきました。

今回はアンケートに回答していただいた方に、龍華図書館開館5周年記念のオリジナルトートバッグをプレゼントしました。マチ付きで絵本もたくさん入る大きさのバッグはたいへん好評で、子どもから大人までたくさんの方が使ってくださいています。

新型コロナウイルスの影響で、まだ一部のサービスは再開できていない状態ですが、皆さまからのご意見を真摯に受けとめ、今後も龍華図書館を気持ち良く利用していただけるように、より一層努力してまいります。2020年で開館5周年を迎えた龍華図書館を、これからもよろしくお祈りいたします。



-Information 図書館のご案内

書き出し小説大賞

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」これは有名な川端康成の『雪国』の冒頭ですが、優れた小説はその書き出しから読者の心を引きつけ、物語の世界へ連れて行ってくれます。今回ご紹介する「書き出し小説」は、その「書き出し」だけで完結した超ミニマルな形式の小説です。【「あ、肉まんを考えた人か」そう思ったときにはもう、滝つぼが眼前に迫っていた。】など、思わず「どんな状況!？」とってしまうような作品も。書き出しが発する「はじまりの予感」を、ぜひ堪能してみてください。

デイリーポータルZ <https://dailyportalz.jp/>



『書き出し小説』

(資料コード:710419797)

天久聖一/編

たった一文で私たちに豊かな物語世界へ誘ってくれる書き出しのみによって成立した「書き出し小説」。ネットサイト『デイリーポータルZ』に寄せられた多くの作品から厳選した珠玉の作品群を紹介する。【TRCマークより】

今月の一冊はコレ!



「旅する練習」

(資料コード:710705013)

著: 乗代雄介 / 出版: 講談社



2020年3月—新型コロナウイルスが人々の生活に影を落とし始めた頃。語り手の「私」は小説家で、姪の亜美(あび)はサッカーにしか興味がない女の子。コロナ禍で予定がなくなった春休み、「私」は亜美と鹿島アントラーズの本拠地を目指す旅に出ます。「私」は風景描写を、亜美はサッカーを練習しながら、利根川沿いをひたすら歩き続ける旅。

「本当に大切なことを見つけて、それに自分を合わせて生きるのって、すっごく楽しい。」(本書より)ラストは切なくも温かい涙がこみあげてきます。第164回芥川賞候補作。

編集・発行

八尾市立龍華図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター

〒581-0056 大阪府八尾市南太子堂 2-1-45
TEL 072-922-8007 FAX 072-922-7057
ホームページ <https://yao-ryugelib.jp/>

Facebook

情報発信をしていますので、
いいね! してください。

